

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : SUNY College of Technology at Alfred

留学期間 : 平成 27 年 8 月 18 日 ~ 平成 32 年 5 月 1 日

私のアメリカでの大学生活はシラキューズのコミュニティカレッジから始まりました。中学の頃から留学を夢に見ていた私にとって、初セメスターは挫折の塊でした。人間関係、特にルームメイトと周りの友達から受けたいじめを含めた人種差別は新しい環境で挑戦しようと動機付けていた自分の自信を無くし、留学をやめたほうがいいのか、自分は留学に適していない人材なのか、という思いがよぎることもありました。それでも海外進学、アメリカの大学を卒業するという目的は捨てられず、違うニューヨーク州立大学のキャンパスに編入することに決めました。

前回の環境で辛い経験をしましたが、同時に周りの人間を選ぶこと、自分を見下げないこと、日本人としての思いやりを持ちながらアメリカならではの自分を強く持って壁に立ち向かう重要性を学びました。新しい環境に入ってから、学んだことを生かそうと、初めのセメスターは新しい環境になれることにまず集中し、人間観察、組織観察をしながら過ごしました。二セメスターに突入してから早 2 ヶ月、現在は国際クラブの PR 担当、同時にオーガナイザー、国際サービスオフィスのアシスタント、国際サポート委員会の生徒代表として学生事務局と連携して働いています。留学する上で大切なのは、学校の知名度や学問レベルよりも、どの学校、どの国のどの都市（都市部、郊外または suburban と呼ばれる中間の環境から選ぶことも大切です）が自分に適しているか、自分が留学する上で求めていることと一致するか、学校が何を主体に考えているか（私の場合は、生徒組織に力を入れている学校、同時に生徒の意見がよく反映されていて、コミュニティとの連結が強い学校でした。）が芯になってくると思います。自分自身もそうでしたが、個人が海外進学に対して強い意志があれば、なんとかしようと頑張れますし、頑張れば頑張るほど充実した学生生活を送れると信じています。アメリカの大学はストレスの溜まる環境ではありますが、同時に学びが多い場所でもあります。冒頭に、留学をやめた方がいいのかな、とよぎったことがあると述べましたが、どんな辛い環境に出くわしても海外進学という決断を後悔したことは一秒たりともありません。支えてくれている方々に自信を持って、最高の大学生活でした、と卒業時に言えるようにこれから先の数年間成長できればと思います。